

ユニバーサルデザインへの取り組み ①

すべての人にとって使いやすい教科書づくりを目指しています。

1. 特別支援教育の視点に立った配慮

特別支援教育に関する校閲

国立特別支援教育総合研究所 総括研究員
田中良広

教科書の紙面づくりを進めるに当たっては、専門家の校閲や助言をいただきながら、子どもたちが使いやすいように細心の注意を払いました。

とりわけ、学習を進めるうえで大切な文章や楽譜などの情報にしっかりと注目することができるように工夫しています。例えば、多くの視覚的な情報を一度に処理することが困難な子どもたちへの配慮として、優しい色調のイラストや、白を基調とするすっきりしたデザインを採用しています。

学習目標

学習のポイント

Sample

楽器の奏法

重要な学習内容がパッと目に入ってくる

2. さまざまな色覚特性をもつ子どもたちへの配慮

色彩に関する助言・校閲

色覚問題研究グループ
ぱすてる

色彩を豊かに用いると、学習への興味が増し、学習理解の効果も上がります。しかし、色の感じ方には子どもたちの感性や経験の差による大きな違いがあり、身体的な特性にも個人差があります。つまり、色彩豊かなデザインがすべての子どもたちにとって必ずしも効果的とは言えない場合があります。

そこで私たちは、先天色覚異常（いわゆる色盲・色弱）をもつ方々の助言・校閲を受けながら編集作業を進め、色覚特性の違いが学習内容を理解する過程に影響を与えないように配慮しました。すべての子どもたちにとって使いやすく、学びやすい教材となるよう、また、人々が違和感をもたない色彩になるよう、紙面デザインには繊細な工夫を施しています。

▼ 囲みの色と形を変えて区別した例

1年 P.56・57

▼ 枠線と色の塗り方を変えて示した例

1年 P.74

▼ 境界線を用いた例

5年 P.40

ユニバーサルデザインへの取り組み ②

教材としての楽曲や挿絵、写真についても配慮しています。

3.

ユニバーサルデザインの考え方を踏まえた教材開発

教材開発において、「すべての子どもたちが無理なく歌え、学習内容に迫ることができるように」という考えに基づいて長年取り組んできました。文章や歌詞、楽譜の読みやすさといった紙面づくりに加え、この教材開発における取り組みは、まさにユニバーサルデザインの考え方を踏まえたものです。

1 学習目標にアプローチしやすい教材

発達段階に合わせて、技術的な難易度を設定しています。

2 子どもの心身の発達段階に応じた配慮

子どもたちの声帯に無理な負担がかからないよう、適切な音域を設定しています。

3 音楽的な達成感を味わえる教材

楽しさや達成感を味わうことができ、技術的に無理なく取り組めるものにしていきます。

4 授業時間や時数と教材の関係への配慮

限られた授業時間、時数の中で、繰り返し演奏したり聴いたりすることができるように、教科書に取り上げる楽曲の長さにも配慮しています。

5 歌いやすさ、歌詞の分かりやすさへの配慮

言葉の自然な抑揚やアクセントを生かした旋律になるように配慮しています。



これらを実現するために……

教育芸術社は、上記の観点や子どもたちの実態を踏まえ、実際に教材の試演を行うなど、よりよいものに磨き上げる過程をしっかりと踏みながら、教材開発を行っています。

4.

道徳教育や人権教育における配慮

互いの人権を尊重し合うこと、つまり「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」は、人権教育の理念でもあります。

教科書で取り上げている楽曲の歌詞の内容やイラスト、写真については、道徳教育や人権教育の観点に立って十分に吟味して選んでいます。

互いに認め合う
気持ちを育む
イラスト



4年P.6・7

5年P.6



友達との
人間関係を
考えるきっかけに
なる教材

- 3年P.6 「友だち」
- 5年P.8 「すてきな一歩」
- 6年P.44 「きっと届ける」

働くことの
大切さや
家族を敬愛する
気持ちに
つながる写真



3年P.15



2年P.51